



申12号『電気部門の変革2022について』に関する解明交渉行っ!

その③

2月26日交渉

【明らかになったこと(要旨)】

【異常時対応】

- ◆電子連動化は全12支社から古い順に優先順位をつけて計画を立てている。小山の問題意識は持っている、計画会議で情報発信していく。
- ◆埼京線のATACS導入について、課題はレール破断検知器の設置が遅れていること。システム導入によるダイヤ乱れの平復に課題があることは本社から聞いている。
- ◆信号関係の図面制度は課題。シグマ・テクノの精度を向上させていく。どれが大事かという優先順位を決めて進めている。大宮支社では8割超えている。
- ◆パートナー会社の異常時における対応について、リセットできる制度は継続していく。新たなものは今施策ではない。
- ◆新幹線と在来線で共用している業務用自動車について、一般乗用車は在・幹で分ける。電気レスキュー車は現行どおりで取り扱っていく考え。ただ、小山の新幹線管理は整理していく。
- ◆信号における那須メセについては現行通りの共用で考えている。必要であれば間仕切りなど検討していく。デポの使い方に関しては現行と変えない考え。

【人材育成について】

- ◆7年育成プランでやるべきミッションがある、個人を把握しながら今後も進めていきたい。課題は判断力。7年かからず一人前になるひともいれば、一人前にならないひともいる。システムチェンジやスマートメンテナンスに対応できる人材育成を行っていく。信通での技能教習所活用でも確実に育成の向上は図られている。個人のバラツキはあるが習熟度の鮮明化に努める。
- ◆7年育成が基本、個人差もあるのでそこを的確に把握しながら場合によっては早期運用も行いたい。
- ◆在来の変電グループの話について、まず業務に見合った要員配置が先決。業務の見直しについても検討性はあると考えている。臨機応変に対応できるよう、リスクを考えながら検討していきたい。
- ◆今施策に伴う出向について、今施策で業務が外に移管されるものがない。

解明交渉では21項目を議論してきました。施策についての**大宮支社の考え**、**現存する課題を議論し、新たな施策実施の前に解決すべきものは解決していかなければなりません。**

今後、**基本交渉に向けて組合員と議論し、私たちにとってより良い施策にしていくために会社と向き合っていきます!!**

電気部門の将来を全組合員で創り出そう!!